

現代科学の粋を集めた地底探検ロケットが  
ついに発見した謎の世界！

■そこは不気味な巨大怪獣が人間を支配していた！

●ターザン映画の最高傑作のE・R・バロウズの  
冒険小説を新開発の特殊テクニックで描く驚異のSFスペクタクル



■カラー作品■  
ダグ・マックルアー  
ピーター・カッシング  
キャロライン・マンロー  
サイ・グラント

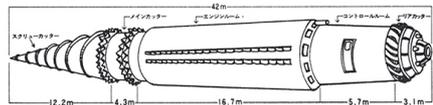
AT THE EARTH'S CORE

# 地底王国

製作総指揮ハリ・N・ブラム◆製作ジョン・ダーク◆監督ケビン・コナー◆撮影アラン・ヒューム◆音楽マイク・ピッカーズ◆コロムビア映画

地底にいたナゾの巨大怪獣たち！

◆これが地底探検ロケットだ！！



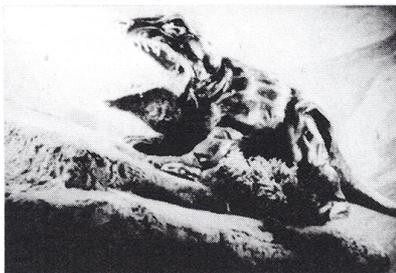
■全長42mの鋼鉄製。別名「鉄もぐら」といい、どんな固い岩石でも掘り進める特殊構造をもっている。一番大きい部分の直径5・2m。  
 ■燃料＝灯油（満タンで約5万ℓ）。連続走行38時間。速度＝前進、秒速2・12m、後進、秒速180m。エンジン＝1万1800馬力。  
 ノーズ・カッター部分、毎秒20回転、メイン・カッター毎秒25回転で岩石を削ってゆく。  
 ■操縦席前面及び側面にあるスクリーンで進行状況を見ながら、手動又は自動で地底へ。

■鋭い歯と爪が特長の爬虫類の親玉・サウルス。動作が機敏で肉食。

■4本のツノと固いヒブをもった怪物。人間をひと口で食べる。

■火焰放射器のように、もの凄く火を吐く巨大な両種類モソブ。

■サルと人のあいの子のような凶暴な地底人サゴス族。



●ネス湖のネッシー、ヒマラヤの雪男、UFO、バミューダ海域の謎の三角地帯、そして地球のあちこちにポツカリと口を開けている「穴」……。私たちの地球上にその真相が解明されないままのミステリアスな現象の数々は、現代人に大きな楽しみと夢を与えている。  
 ●「ターザン」シリーズや「恐竜の島」の原作者であるエドガー・ライス・バローズの「地底世界ペルシダー」シリーズは冒険SF小説として広く親しまれている。  
 当作品は、その第1作目の「地底の世界ペルシダー」の映画化である。

●「鉄もぐら」と名づけられた地底探検ロケットに乗った科学者とその後援者の青年が、地底に広がる別世界ペルシダー——無限に輝く太陽。水平線も、時間も、方位も、昼夜の別もない世界、そして海と陸の分布が地表とは逆になっている世界。怪奇な動物と人類の世界——に落ちこみ、スリルとサスペンスにあふれた冒険をするという物語。  
 ●登場する怪獣も、ナミの恐竜たちではない。タカの頭部を持ち2本足でのし歩く体長8〜10mの怪獣。4本の大きな角とタテガミのあるサイと恐竜のあいの子のような巨獣、ボス。カバに似た頭に鋭い歯をそなえた、巨大な爬虫類サウルス。ワ

ニのような口から火焰を吐き、ひき蛙を思わせるからだに長い尾を持つ体重数トンの両棲類モソブ。そしてペルシダーを支配する翼竜のようなメーハー族、その輩下の猿人サゴスなどなど、ゆたかな想像力のたのしい産物である。  
 ●出演は「恐竜の島」のダグ・マックルアー、ド・ラキュラ」のビーター・カッシング、「シンドバッド黄金の航海」のキャロライン・マンロー、「恐竜の島」のゴッドフリー・ジェームズなど。  
 製作総指揮はハリイ・N・ブラム。プロデューサーのジョン・ダークと監督のケビン・コナーはともに前作「恐竜の島」でコンビを組んでいる。

地底を支配する  
テレパシー怪獣メーハー

AT THE  
EARTH'S CORE

# 地底王国

8月7日(土)よりロードショー

●特別鑑賞券 ¥900 (一般 ¥1,200・大学生 ¥1,100・高校生 ¥1,000のところ) 劇場窓口にて発売中！

伊勢丹斜め向  
新宿 東映 パラス (351) 3061

■カラー作品■  
コロムビア映画

